

# 令和7年度 岡山県立西備支援学校 学校評価書

## I 自己評価結果

### 1 評価方法

学校評価を行うにあたり、次のように行った。

- ① 学校評価アンケート（教職員対象）別表1参照
- ② 学校評価アンケート（保護者対象）別表2参照

### 2 評価結果

評価点は、「当てはまる」を4点、「やや当てはまる」を3点、「あまり当てはまらない」を2点「当てはまらない」を1点として計算し、合計点数を回答数で割っている。全員が「当てはまる」と回答した場合、評価点が4点となる。別表3、4、5参照

### 3 参考資料

令和7年度学校経営目標・重点目標の評価

## II 分析・改善方策等

- 1 項目別評価 〈別表3〉教職員アンケートの結果と昨年度との比較  
〈別表4〉保護者アンケートの結果と昨年度との比較

### (1) 項目別評価

本年度は、保護者アンケート、教職員アンケート共に質問項目の内容について大きく変更はないが、一部表現を具体的にした部分がある。教職員アンケートについては、学校経営計画とのつながりについて例年同様に明確にした。

#### 【保護者】

#### ① 評価点が高い項目

保護者の評価点が高かった項目（評価点3.7以上）は、1「教育活動の工夫・改善に関するもの」、3「個別の教育支援計画の作成に関するもの」、4「個に応じた目標設定に基づく指導・支援に関するもの」、5「学習の記録に関するもの」、6「プライバシー保護と人権への配慮に関するもの」、7「病気やけがへの対応に関するもの」、8「災害時に備えた取組に関するもの」、9「教育環境（施設・設備）の整備と事故防止に関するもの」、10「給食の安全に関するもの」、13「ホームページやFacebook等を通じての情報発信に関するもの」であった。いずれも昨年度同様に保護者の学校への期待が大きいと思われる。

10 給食・衛生環境（3.9）は昨年に続き全項目中トップの評価であった。3 支援計画、8 防災、6 人権、7 安全、これらは3.8と高水準で、学校の基盤となる「安心・安全」や「計画的な支援」が、本校の強みとなっている。

#### ② 評価点が低い項目

保護者の評価点が低い項目（3.5以下）は、12「社会生活を送る上で必要な情報の提供に関するもの」、14「地域の教育力の積極的な活用に関するもの」、15「関係諸機関との連携に関するもの」であった。昨年度も評価の低かった項目である。

### ③ 令和6年度との比較

#### 〔評価点が上がった項目〕

令和6年度の結果と比較し上昇した項目は、6「プライバシー保護と人権への配慮に関するもの」、7「病気やけがへの対応に関するもの」、15「関係諸機関との連携に関するもの」の3項目であった。特に15の関係機関連携に関しては、医療・福祉・労働などの外部機関と学校が連携して支援する体制が、本校コミュニティ・スクール『セイもんスクール』の活動と共に、少しずつ保護者に浸透し始めていると思われる。

#### 【教職員】

##### ① 評価点が高い項目

教職員から高い評価となった項目（評価点3.7以上）は、2「児童生徒情報の引き継ぎ」、3「個別の教育支援計画の作成」、4「個別の指導計画」、5「学習の記録の記載」、6「プライバシーや人権への配慮」、7「校内安全、未然防止」、8「返済時訓練、マニュアル」、9「教育環境（施設・設備）の安全整備」、10「給食提供、摂食指導」、11「卒業後に必要な力を伸ばす指導」、13「学校の様子の情報発信」、15「関係機関との連携」、17「専門性向上のための研究研修」であった。安全管理や人権尊重といった常に心がけている内容が高いレベルで維持できたことは本校の強みとなる。

##### ② 評価点が低い項目

教職員の評価点が低い項目（3.5以下）は、20「ICT利用、自ら学ぶ授業作り」であった。  
\*16～21については、教職員のみを対象としている項目である。

##### ③ 令和6年度との比較

令和6年度の結果と比較し、21項目中16項目で評価点が上がった。昨年度において最も低い評価（3.3～3.4）だった項目14「地域の教育力の活用」、18「学部間連携や合同授業」、21「教員間の協力・支え合い」が、今年度大きく向上している。教科指導、分掌業務、クラス経営など、個々で対応していた状況から、チームで教育にあたるという土台ができてきた。校内の連携が強まってきた結果、11「卒業に必要な力を伸ばす指導」、17「専門性向上のための研究研修」、19「各種検定への取り組み」教育内容の専門性も向上している。

#### (2) 保護者・教職員の評価点の比較 〈別表5〉教職員と保護者のアンケート結果の比較

保護者と教職員の評価点の比較では、1「教育活動の工夫改善」、8「変災時の備えた取組」、10「安全な給食の提供」の項目で保護者の評価点が教職員の評価点を上回っている。「安心・安全」の基盤部分に対して、保護者から非常に高い信頼（3.9は全体最高値）を得ることができた。

保護者の評価点が職員の評価点より低かった項目は2「前の学年や学部・学校からの引継」、11「卒業後に必要な力を伸ばすための学習」、12「社会生活上必要な情報の提供」、15「関係諸機関との連携に関するもの」であった。将来や対外的な連携に関わる部分で、教職員は「できている」と感じているものの、保護者の満足度に十分に達していない（または伝わっていない）と考えられる。

「3「個別の支援計画」、6「プライバシー」、7「安全対応」は、3.8という高水準で、学校と

保護者の間で児童生徒への支援方針や安全管理に関する方向性が共有できていると考えられる。

## 2 課題となる項目の改善に向けて

保護者アンケートで相対的に数値が低めの項目（3.5以下）は、「学校外とのつながり」や「情報提供」に関連するものであった。12「社会生活情報の提供（3.4）」が全項目中で最も数値が低く、横ばいであったことから、学校から発信する「社会資源や生活に関する必要な情報」を更に工夫していく必要がある。また14「地域の教育力活用（3.5）」については、地域との交流や施設の活用について、コミュニティ・スクールの活発化により更に取り組みを深化させていきたい。15「関係機関との連携（3.5）」は0.1ポイント上昇したが、まだ全体の中では低めの数値である。進路や福祉サービスとの接続など、より目に見える形での連携強化と共に、セイモンスクールの取り組みを関係機関と共に実施する方向で計画していきたい。

教職員アンケートでは、全体的に数値の底上げが図られた中で、20「ICTを利用した自ら学ぶ授業作り」は前年度より改善（3.5ポイント）したものの、他の項目と比較すると更に取り組みを発展させることができる余地がある。次年度は、今年度強化された「教職員間の協力体制」を活かし、ICT活用事例の共有や相互授業参観を積極的に行うことで、組織全体でのICT指導力の向上を図り、児童生徒の主体的な学びへと還元していきたい。

## 3 その他

今年度のアンケートではすべての項目において昨年度を上回る、または同等の評価結果となった。特に、教職員アンケートでは「チームワーク」が読み取れる。OJT研修や学部間交流など、学部や学年の壁を越えて教職員が協力し合う体制が整ったことで、児童生徒一人ひとりに対する指導の専門性が高まり、将来を見据えた進路指導や検定への取り組みもより活発化してきた。

安全管理や給食、人権尊重といった、学校生活の安心を守る取り組みについても、引き続き非常に高い評価を維持できている。

来年度も引き続き、本校コミュニティ・スクール『セイモンスクール』を柱とする教育活動をホームページやFacebookを利用して積極的に情報発信することはもとより、掲示板を活用した見える化を更に進め、地域への発信も充実させていくことで、「地域と共にある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」を実現できればと考えている。

## III 学校経営目標重点目標に関する教職員の評価

### 1 自立と社会参加を目指し、キャリア発達を促す教育活動の推進（「夢育」の推進）

一貫性・系統性のある教育活動の充実を図り、一人一人の個性と教育的ニーズに応じた適切な指導・支援を行うため、各分掌や教科等領域の指導計画を年度末から年度当初に、各分掌・学部で立案・検討し、それを基に個別の指導計画や自立活動の指導計画の検討を行った。これらの検討により各種指導計画の系統性の精度を高め、指導と評価の適正化を図ることができた。

教職員アンケートの結果では、18「学部間連携や合同授業」（+0.2）、19「各種検定への取り組み」（+0.3）の項目で、昨年度より評価が大きく上昇した。

知的障害部門では全学部合同の学部部門を超えた学習活動を10以上回実施した。また肢体不自由部門でも知的障害部門と合同で教科等の学習を行うことで、下級生が上級生に憧れをもてる

「夢育」の推進につながった。

小学部では、日常生活の指導に関する技能検定や中学部では清掃検定、接遇検定、パソコン検定、高等部では清掃検定、パソコン検定に取り組み、児童生徒一人一人が目標をもちそれを達成しようと努力できるよう指導・支援を行った。これら各種技能検定の実施により、自己肯定感の育成を図ることができた。キャリア教育の推進に関して、特に学習内容について全学部で連携を深めることで、昨年度より充実した教育活動を展開することができた。

## 2 子どもたちの豊かな学びを深めるための授業力・専門性の向上

「心が動く」を研究テーマに、「自ら考え、取り組む」授業づくりの推進に向け、児童生徒の学ぶ姿を各学部でイメージして公開授業を行った。単元構想の段階から大学教員や県教育センターの指導主事に指導助言をいただくとともに、授業後の反省会での意見交換や学びの確認会を通して児童生徒の変容を見取りながら授業改善していく意識が高まった。

組織的な OJT チームによる双方向の学び合いの活性化を目指して、可能な限り教職員のニーズに沿った研修を開設し、自分の課題に応じた内容を選択できるようにした。これにより自主的に研修に参加する教職員が増えた。他校の研究発表会や公開講座等の校外研修会の研修内容を職員会議で全職員に伝達講習をしたり、研修資料や外部専門家による指導助言内容を回覧したりすることで、自身関わっている児童生徒に対する指導支援の参考にすることができた。教職員アンケートの結果では、17「専門性向上のための研究研修」(+0.2)の項目で昨年度よりも評価が上昇した。OT研修やST研修等の等のあり方も見直し、引き続き多様な障害に対応できる専門性や指導力の向上を目指したい。

## 3 安心安全で健康的な学校生活を送るための教育環境の整備

防災意識の向上と危機管理体制の確立と強化に向け、児童生徒・教職員双方に向けた実践的な防災教育に着手できた。防災マニュアルを含めた防災体制の改善については、管理職が不在な状況を常に意識した訓練を導入し、個々の教職員が他者の役割を担うことができることを前提とした。また高等部の生徒に対して、自分の命の守り方を考える学習に取り組むことができた。

いじめや悩みの「早期発見・即応体制」を維持するとともに、情報モラルや性教育等の予防啓発を強化し、トラブルを未然に防ぐため、アンケートや教育相談の機能を継続して実施した。重大ないじめに発展する前に早期発見し、保護者と連携しながら対応できた。LINEトラブルや異性との関係については、性教育やスマホネット安全教室等、今後も継続的な指導が必要である。

年度初めから救急車誘導経路や人工呼吸器使用児童への対応について看護師を含む関係教職員で情報共有したことで、個別マニュアルを活用した体調急変時の対応を適切に行うことができた。緊急時の服薬については主治医の指示を基に安全かつ確実にできる体制を検討し、今後実際に実用可能か検証していき、安心安全で健康的な教育環境を更に充実させる。

## 4 地域と連携した教育活動の強化と特別支援教育のセンター的機能の充実

居住地校交流の直接的な交流の実施率は、小学部 49%、中学部 57%であった。交流籍を置くのみ又は籍を置くことを希望されない方が数名いるため、引き続き呼びかけていくとともに、間

接的交流についても推進していきたい。前年度まで取り組みに加えて、井原市の商業施設での販売や地域の施設へのプランターの配布、校内の農場に地域の方を招いての農作業を通しての交流など新たな取り組みもできた。

コミュニティ・スクールを基盤として、家庭・地域と協働する教育活動の推進に向け、笠岡市・井原市の関係者と合同で福祉避難所見学会を実施した。自治体間の枠組みを超えた広域的な協力体制の構築につながると共に、専門的な視点（行政・福祉関係者）を取り入れることで、備蓄品の管理や要配慮者への対応など、より具体的に実践的なマニュアルへと刷新できた。

教育活動の積極的・効果的な情報発信の充実においては、今年度は特に、学部を超えた学習活動（キャリア教育の推進）や地域学校協働活動、教科における地域人材を活用した授業などを、積極的にHPやFacebookにより発信した。また、報道機関による広報を年2回実施できた。笠岡市、井原市、浅口市、里庄町、矢掛町の関係諸機関と連携して行事等の広報活動を展開することで、本校の教育活動（作業学習の成果物販売）や福祉避難所の機能について、理解の推進を図ることができた。

地域支援の推進と地域ネットワークの拡充に向けては、地域の小・中・高等学校等のニーズに柔軟に対応できるよう、状況や緊急度に応じて、従来の「訪問」だけでなく電話やオンラインによる支援を選択できる体制を整えた。校内業務とのバランスを考え、相談受付、事前の情報整理、実際の助言、事後フォローの各工程において、校内エキスパート間で役割分担をして対応した。昨年度とほぼ同じ回数の相談支援が実施できた。（地域の小・中・高に28回訪問相談を実施、電話相談は39回。）

## 5 学校運営組織の活性化による働きがいのある職場づくりの推進

昨年度の反省を活かし、一人一分掌による分掌配置の適正化を図り、組織的に業務の効率化に努めた。業務が繁忙期に集中する分掌では内容を検証し、繁忙期における業務内容の分担について次年度に向けて明確にした。また、GoogleやCanvaなど各種アプリを活用し教員一人一人が積極的にタブレットを活用することで、「チーム学校」による情報共有効率化の基盤を強化することができた。

教職員アンケートでは、21「教員間の協力・支え合い（3.3 → 3.6 / +0.3）」の項目が大きく上昇した。教職員一人一人のワークライフバランスを意識した働き方の工夫として、会議のルールづくりや時間外在校時間の目安を具体的に数値で掲示したことで、教職員一人ひとりが「時間の使い方」を自律的に意識するようになってきた。また計画的にコンプライアンス研修を実施する中で、グルーピングや意見交換のテーマを工夫することで業務以外の「人となり」を知り、心理的な壁が低くなった。これにより、日常的な相談や声掛けがしやすい「認め合い」の土台が築かれた。

多忙な時期でも時間を意識して業務を進めることがスタンダードになり、休暇や出張などで教職員数が足りない時には学部部門を超えて、互いに声を掛け合いフォローできる体制も整いつつある。引き続き『計画性・効率性』を意識して業務を推進し、認め合い、助け合い、高め合う、同僚性の高い職場を目指していく。



# 令和7年度 学校評価アンケート（保護者用）

別表2

岡山県立西備支援学校

当 て は ま る	や や 当 て は ま る	あ ま り 当 て は ま ら ない	当 て は ま ら ない
-----------------------	---------------------------------	--	-----------------------------

※このアンケートは、学校の教育活動をより充実したものとするために、学校から保護者の皆様にお願ひするものです。  
 それぞれの内容について、a~dのうち、該当する欄に○印を書いてください。  
 どうしても判断できない（分からない）内容は、○印を記入しなくても結構です。

	評 価 内 容	a	b	c	d
1	学校は、お子さんが進んで学習できるよう、教育活動の工夫・改善を行っている。				
2	お子さんに関する情報について、前の学年や学部・学校からの引継が行われている。				
3	お子さんの個別の教育支援計画は、十分な説明のもと、学校と保護者で話し合っ作成されている。				
4	お子さんは、個に応じた目標設定に基づいた指導・支援を受けながら学習できている。				
5	「学習の記録」には、お子さんの成長が適切に評価され、わかりやすく書かれている。				
6	学校は、お子さんのプライバシーの保護や人権に配慮して、指導や支援を行っている。				
7	学校は、お子さんの校内での安全について、病気やけがへの適切な対応や予防の取組などを行っている。				
8	学校は、変災時（自然災害や火災など）に備えた取組を行い、様々な訓練を行っている。				
9	学校は、教育環境（施設・設備・備品等）を安全に整え、事故防止に努めている。				
10	学校は、お子さんの健康や衛生環境に留意し、安全に給食を提供している。				
11	学校は、お子さんの将来の姿を念頭に、卒業後に必要な力を伸ばすための学習活動を取り入れている。				
12	学校は、お子さんが社会生活を送る上で必要な情報の提供を行っている。				
13	学校は、通信やホームページ、フェイスブックなどを通じて、学校の情報を保護者や地域へ発信している。				
14	学校は、地域の教育力（駅・公民館・商店などの施設、近隣の学校、その他団体・個人）を積極的に活用して教育活動を行っている。				
15	学校は、医療・福祉・行政・労働などの関係機関と連携して支援を行っている。				

地域の教育力（駅・公民館・商店などの施設、近隣の学校、その他団体・個人）を積極的に活用する教育活動についてご意見があればご記入ください。

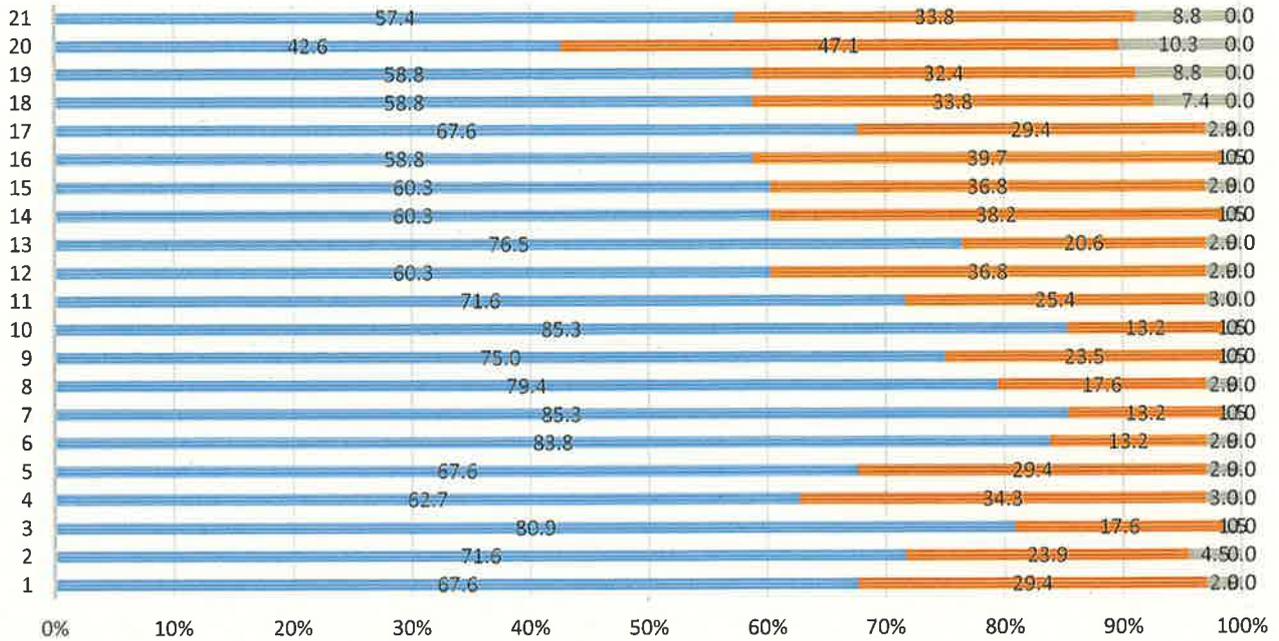
御協力ありがとうございました。

締切：11/17(月)

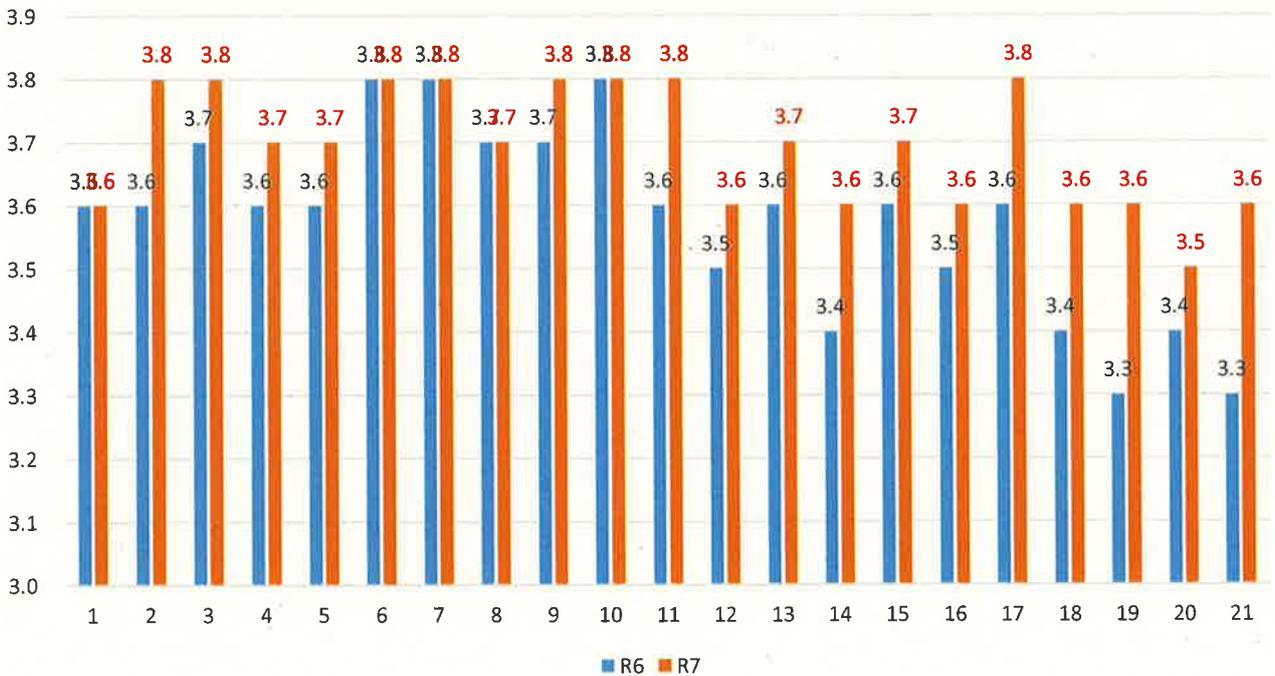
# 教職員アンケート結果R7

別表 3

■当てはまる ■やや当てはまる ■あまり当てはまらない ■当てはまらない



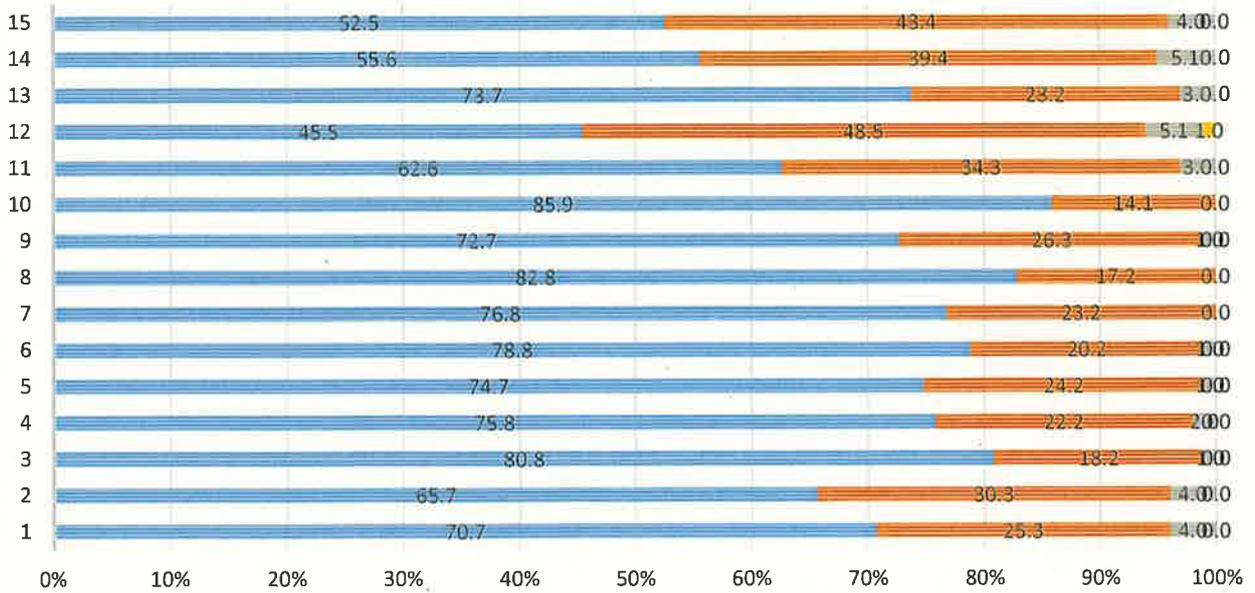
## 教職員R6・R7比較



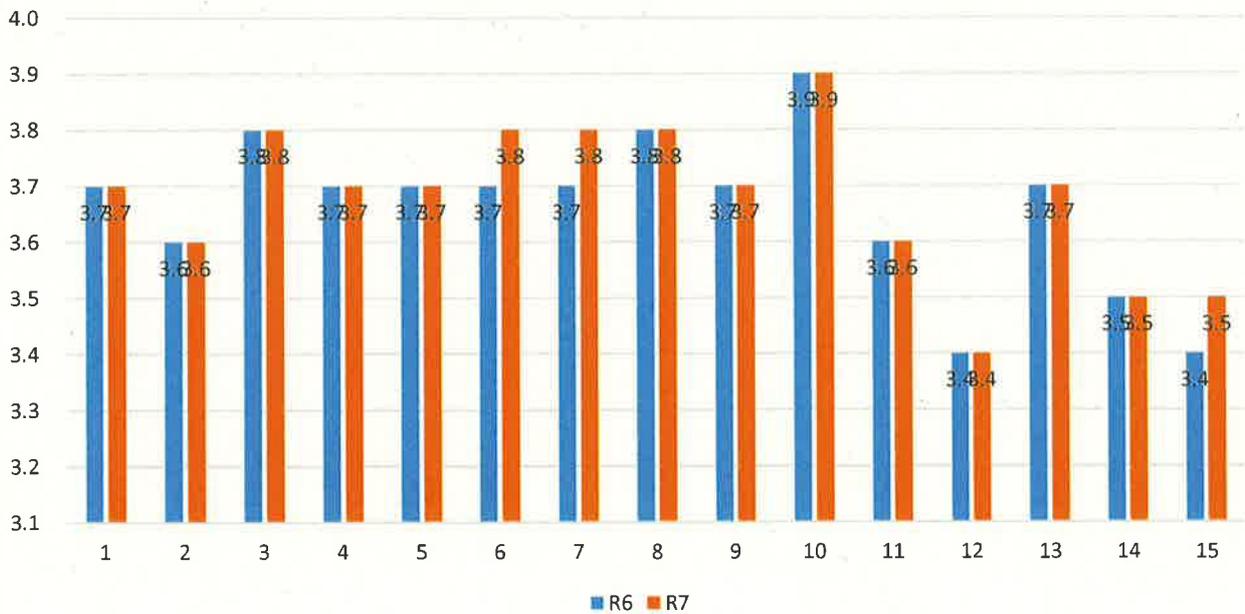
# 保護者アンケート結果R7

別表 4

■ 当てはまる ■ やや当てはまる ■ あまり当てはまらない ■ 当てはまらない



## 保護者R6・R7比較



教職員・保護者比較R7

別表 5

